木曾観測所の開所式を迎えて

高　瀬　文志郎*

1974年10月1日，東京天文台木曾観測所はめでたく開所の日を迎えた．標高 1,120 m の観測所周辺にようやく樹々の紅葉が始まり，西に御岳，東に木曾駒の姿がくっきりと見える一日であった．

当日午後1時から約1時間半，上松町公民館で式典と祝宴が催され，地元関係の来賓を主体に，大学ならびに天文学関係者を加えた約150氏の御出席を得た．観測所の施設供覧も午前と午後の両回にわたって行なわれた．

☆　☆　☆

木曾観測所の敷地は長野県木曾郡の三岳村・王滝村・上松(あげまつ)町の三ヵ町村にまたがる約 6 ha の山林地を造成したもので，105 cm シュミット望遠鏡ドーム，夜天光観測室および本館の三つの建物がある．敷地・道路の造成と建築は東大施設部の設計管理にかかり，施工は銭高組（土木・建築工事），須賀工業と関東電気工事（設備工事），および三井造船（ドーム工事）が当った．土木工事は1972年4月から，建物工事は1973年2月から始まり，建物の竣工は1974年の6月であった．

一方シュミット望遠鏡は1971年4月から4ヵ年計画で建造が開始され，設計製作は日本光学（光学系・機械系・電気系）を主軸に，沖電気（制御系），グラブパーソンズと法月鉄工（対物プリズム）がこれに加わった．1974年7月からは観測所のドームで望遠鏡の据付け・組立て・調整が進められている．一日も早く試験観測さらに本観測に入りたいものである．

また夜天光観測装置は，近くの日義村にあった仮観測所からの移転が終り，さらに三鷹・堂平に設置されていた諸器械の主力，および現在製作中の大気光高速多色天頂光電測光器もここへ集められることになっている．

☆　☆　☆

日本でのシュミット望遠鏡建設の歴史や大型シュミット望遠鏡計画の推移については，本誌1970年9月号にある広瀬・清水両先生の記事を参照されたい．

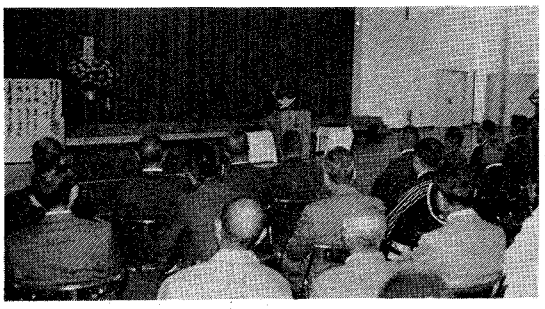
東京天文台の大型シュミット望遠鏡計画が発足するに先立って，1969年の暮に近い一日，日本光学へ赴いて，始めての予備会談を行なったことが，昨日のことのように思い出される．その後も数回打合わせを行って，補正板や主鏡の現寸法その他設計の大綱が決ったのは1970年3月のことである．同年6月には天文学研究連絡委員会の「大型シュミット望遠鏡建設についての決議」もなされて推進の機運が高まった．かくて1971年度からの計画として提出した予算要求が首尾よく認められ，いよいよ関係者多年の宿願が実現の運びになったと知れたときの喜びはいまだに忘れ難い．

観測所の建設工事も相ついで順調に進行し，まことに幸運であった．望遠鏡および観測所の建設推進について，多大の御尽力と御声援を賜わった各位に，深い感謝を捧げたい．

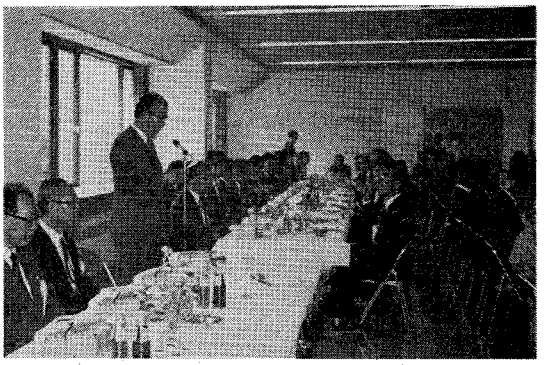
☆　☆　☆

天体観測に夜空の暗さが肝要なことはいうまでもないが，ことにシュミット望遠鏡での観測や夜天光観測にとってはこれが生命である．東京天文台では1965年から66年にかけて，各地で夜光分光器による写真をとり，人工光に基因する水銀スペクトル線の強度を調べた．その結果，木曾の日義村は乗鞍と同程度に人工光が少ないことがわかったので，交通条件の良好さも考慮して，1968年9月ここに夜天光の仮観測所を設けたわけである．

一方，1969年暮からは，シュミット望遠鏡の設置場所についてもあれこれ検討を始めた．上記人工光の件その他の環境条件と気象条件（晴天日数，空の透明度，シン

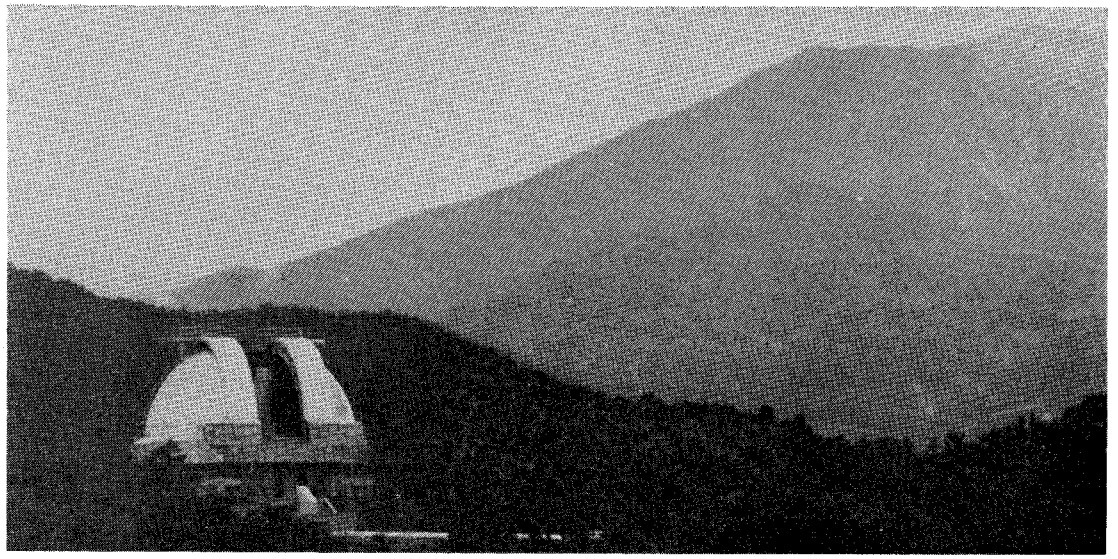


開所式で式辞を述べる大沢天文台長



祝宴（司会は新井天文台事務長）

* 東京天文台
"Opening of the Kiso Station"



105 cm シュミット望遠鏡ドームと御岳山（日本光学提供）

チレーションなど）を勘案し，結局夜天光の仮観測所に近い現在の場所を候補地に選んで，1970年8月から気象条件のテスト観測を始めた．その結果は，日義村での空の明るさの観測結果とともに，東京天文台報第16巻第2冊（1973年）に報告されている．

気象統計を取寄せたり，地図を眺めたりした上で，実地踏査に赴いた場所は，木曾地方以外に，静岡県の内陸部や愛知県の奥三河地方など数カ所がある．気候と交通の便はよいが，この地方は山奥でも，東海道工業地帯の灯が明るく見えた．

木曾地方に的をしぼった後も，ずいぶんあちこち踏査した．また気象庁へ行って地形による局地的な気象の違いを教わったり，地理の先生に人文地理学的な立場からの見解を伺ったりもした．こうして集めた諸資料をもとに，1971年4月から東京天文台内に設けられたシュミット望遠鏡建設委員会で検討を重ねた上で，現在の場所が決ったしだいである（本誌1972年9月号，月報アルバム参照）．

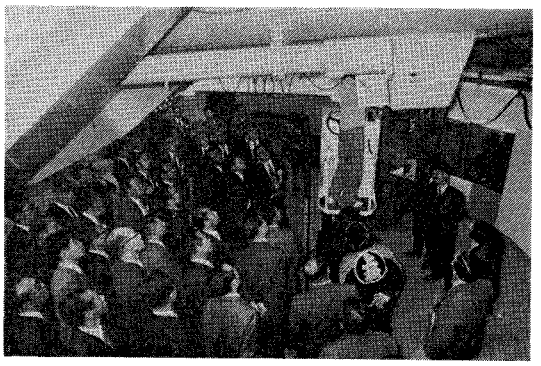
☆　☆　☆

1970年2月，三岳気象通報所を訪れた際，当時の池田所長さんに案内されて，雪の中を始めて踏みしめた樽沢峠は，観測所の東 1 km の所にあり，観測所への道路の入口になっている．約1年半のテスト観測中お世話になった樽沢さんのお宅も道路脇に見え，通りかかるたびに当時のことが思い出されて懐しい．

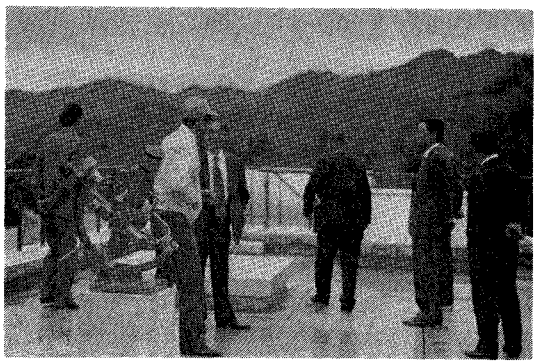
一方ならぬ御理解と御好意を賜った長野県木曾地方事務所や地元三町村の方々，ならびに夜天光の予備観測中お世話になった日義村の方々には，心から御礼申し上げるしだいである．最後に，古畑前東京天文台長が開所式に当って寄せられた新版木曾節の一部を御紹介してこの稿を終りたい．

木曾のナァー青空，木曾の青空ナンチャラホイ
日本の宝ヨイヨイヨイ　　（中略）
空のナァーかけはし*，空のかけはしナンチャラホイ
宇宙へとどくヨイヨイ

* 木曾の桟（かけはし）は木曾名所の一つ



シュミット望遠鏡を見る来賓諸氏



夜天光観測器械（対日照観測器）の供覧